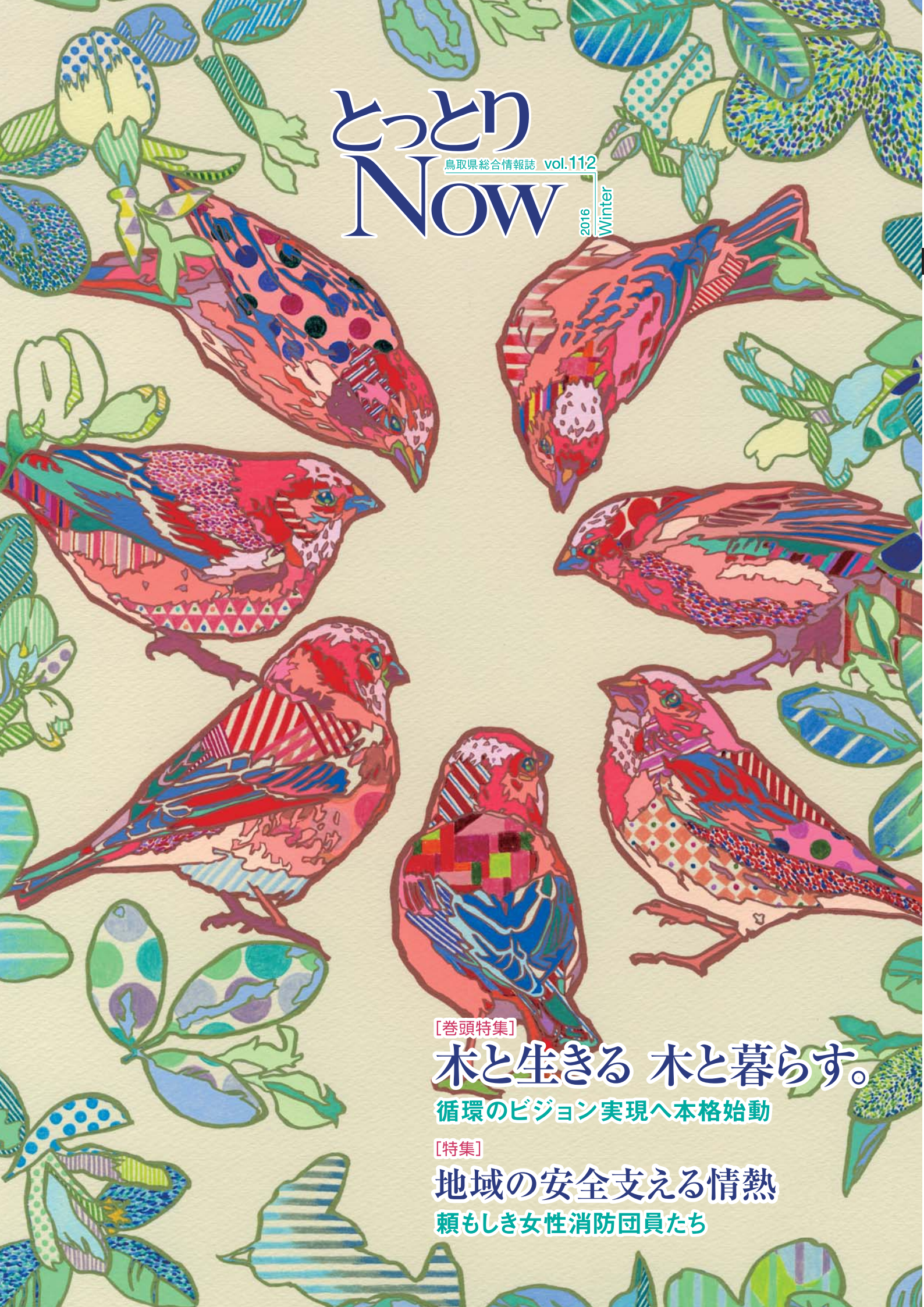




# とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.112

2016  
Winter

[巻頭特集]

## 木と生きる 木と暮らす。

循環のビジョン実現へ本格始動

[特集]

## 地域の安全支える情熱

頼もしき女性消防団員たち





▶オオマシコ◀

体長約17cm。雄は頭部や胸部などが鮮やかな紅色。翼と尾羽は、暗色淡色の重なった模様。雌は全体的に淡い褐色。小さな群れをつくって、植物の種子や実などを食べる。渡り鳥のため、冠雪する地域に移動して越冬するが、どの地域でも多く見られる年と少ない年の差があり、その理由は不明。

参考文献\*『とっどりの野鳥』（2003年5月、鳥取県発行）  
写真提供\*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 吉田 亮

# とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.112  
2016 Winter



古代の朝焼け夕焼けが、壺の丸味に映えて鮮やか。[国造焼]山本浩彩さんの作品は、悠久の歴史と宇宙を思わせる。地元は事実、聖域を表す不入岡や上神の名を残し、伯耆の造(※1)を祀る大将塚などの遺跡が点在。窯元の由来はそこにある。

国造焼は2代まで日常雑器を作ったが、容器の変わり目で多くの窯元が衰退した。そこで伝統に新たな技法を注ぎ、アート性の高い「焼締窯変」(※2)を創出したのが、現陶主の3代・浩彩さんである。

焼成は3回。温度の調節で、土肌に白・赤・黒の彩りを生む。造形はシンプル。それだけ「立体のキャンバスに、絵を描く気持ち」で、景色を強調する。壺はたっぷりとした張りに、茜色の空が燃え、大地のカオスは湧き立ち、まさに壮観な天地創造の気配。香炉は瑞々しい夜明けで、ほのかな色香も匂うばかりだ。

しかし、窯変は容易に操作できない。作者にも特定のイメージはなく、「見る人が自由に想像し、心の癒やしになればよい」と、穏やかに笑う。雲がいつも変化するように、土と炎の芸術も同じこと。千変万化する窯変は、一期一会の陶芸と言えようか。

※1 造=古代の姓のひとつ  
※2 焼締窯変=釉薬を使わず、焼成の変化で魅せる技法



『焼締窯変香炉・曙の刻』(高14×径11cm)

文/角秋勝治 撮影/山本慶治



## 壮観、茜の天地創造

陶芸 山本浩彩



『焼締窯変壺・天地創造』(高38×径36cm)

### やまもと・こうさい

1949年、倉吉市生まれ。本名は英二。84年日本伝統工芸展初入選、2004年に日本工芸会奨励賞、08年に中国支部展金重陶陽賞受賞。日本陶芸展、田部美術館大賞「茶の湯の造形展」でも活躍。鳥取県郷土作家展に選出、県指定無形文化財保持者、県文化功労賞受賞。日本工芸会正会員。

### 特集

地域の安全支える情熱  
頼もしき女性消防団員たち

中川酒造

真心あふれるイタリアン

自然観察指導員(南部町)

エムケイ開発株式会社

111号の感想から  
ブラジル鳥取県人会

読者プレゼント・編集後記

あーとの森

陶芸 山本浩彩

### 巻頭特集

木と生きる 木と暮らす。  
循環のビジョン実現へ本格始動

郷土LOVEの紙芝居師  
ゴロ画伯の絵日記帳 拝む姿で1300年をPR

秦博志 資料修復家

軽食喫茶ハマ

今時代屋  
ここにあるカタチ

良い酔いはしる酒  
とっとり酒蔵めぐり

鳥取のうま味

VIVALA MY LIFE  
輝くJUTTAーン者たち

企業紹介

Voice  
緑すまいる

※カメフライは休みます。

### ●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。先日、庭にモズが現れた。縄張り争いだろうか。秋号で描いた鳥だ。出会えて嬉しかった。そういえば、オオマシコの好物である萩もここに咲いている。出会えないかなあ。





# 木と生きる 木と暮らす。

## —— 循環のビジョン実現へ本格始動

深緑色の針葉樹を携えた山は、  
いつも静かに立っていたから、  
その息苦しさ気づく者はなかなか現れなかった。  
だけどもある日、ひとりの木こりがやってきて、  
周囲を見渡しながら慎重に1本の木を選ぶと、手際よく切り倒した。  
薄暗かった森に一筋の明るい日射しが差し込み、  
山はようやく大きく深呼吸をした。  
山と木の循環が始まる時がやってきたのだ——。

文／鳥飼 明子 写真／山内 一峰・山崎 登・田中 良子  
グラフィック／近藤 礼章





音が木を伝わる時間の差によって強い杉を見極める調査。調査方法は研究員のひらめきから生まれたという(写真提供:鳥取県林業試験場)



強い木の枝を採取して挿し木にし、クローン杉を育成する

## 鳥取県林業試験場の取り組み

鳥取市河原町の霊石山の麓、広い敷地内に木材加工棟や実験設備、育種の圃場を持つ鳥取県林業試験場。ここでは日々、鳥取県の林業・木材産業の振興に資する研究・技術開発が行われている。

さて、驚きの研究成果が発表されたのは昨年秋のこと。通常、杉は桧よりも柔らかい材質だが、「MM法」という独自に開発した強度計測方法を使い、立木のまま杉を調査・計測したところ、何万本の中から桧に負けない強度を持つ杉を見つけ出すことができたという。その枝を採取し、挿し木でクローン杉を育成。さらには形質の良い杉と交配し、両方の能力を有するハイブリッド杉も開発中なのだ。

この研究を手がけた木材利用研究室の桐林真人研究員は、「成功の鍵であるMM法は、ほんの少しのひらめきから生まれました。あとはひたすら1千本以上の杉を計測。5年の歳月を要しましたが」と事もなげに言う。さすがの研究者魂だ。育成の成果が出るのは20〜30年後だが、次世代のブランドに期待が高まっている。

試験場ではこの他にも、無花粉杉の開発、木材の効率よい乾燥方法など、さまざまな課題に挑んでいる。「産業との関係が密接で、求められるものについて研究しています。関係企業との共同研究もしょっちゅう」と、木材利用研究室長の野間修一さん、森林管理研究室長の谷口公教さんは口をそろえる。「木が使われず、林業は一時斜陽産業、と言われていましたが、今再び注目を集めています。それによって森の資源が循環し、中山間地が元気になってくれれば」。常に林業の一步先を見つめる優しい瞳に、研究者たちの誇りが見えた。



産業への応用に向けて内装材の研究や実験、利用法の提案なども行う(写真提供:鳥取県林業試験場)

鳥取県林業試験場  
鳥取市河原町稲常113  
0858-85-6221  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/ringyoshiken/>

## 一步先を見つめ、研究開発に邁進

# 待ったなしの利用促進

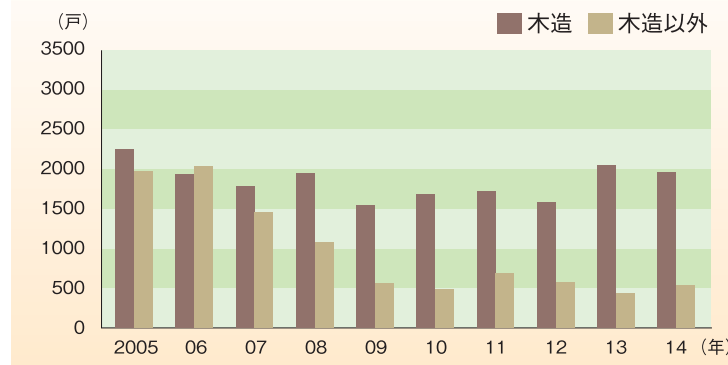


## 県産材の現状と取り組み

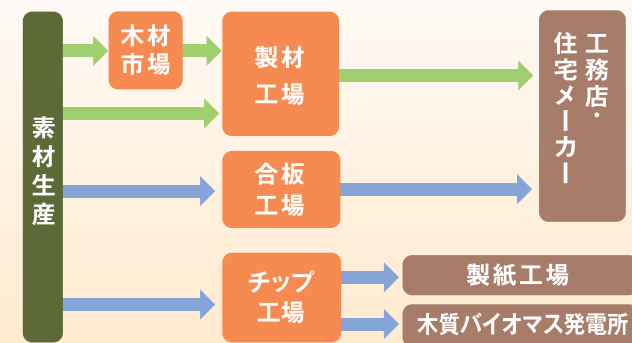


「関係メンバーが思いをひとつにして県産材利用の促進をすすめていきたい」と決意を語る会長の前田さん

### 【新築住宅着工戸数の推移】



### 【県産材の主な流れ】



鳥取県の林業は、豊かな山林を有するこの地の一大産業として古くから栄えてきた。ところが、1930年代には戦争拡大に伴う軍需物資として、終戦後は復興の資材として大量に求められ、森林のほとんどが伐採された。荒廃した山に再び大規模な植林が施されたものの、木はすぐ

には育たない。その間に外国産材の輸入が進み、県内林業は勢いを失っていった。約60年の歳月が過ぎ、当時植林された森林はようやく間伐期を迎えている。にもかかわらず、建築様式の様変わりなどで一度離れた県産材の需要はなかなか伸びず、林業関係者

や建材メーカー、工務店、行政等、おのおのが独自の仕掛けを展開するも、大きな消費拡大につながらない。現状を打破するには、それぞれの動きを一つにする必要がある。その理想を掲げたのが「木づかいの国とつとりを実現する会」。昨年からの準備をすすめ、今年6月に設立した。各関係団体が一つのテーブルにつき、県産材利用促進を目指して、林業・木材産業の成長及び地域活性化につながる企画を立案、実行していくというものだ。

会長に就任した前田八壽彦さんは、「とにかくふり構わず、関係者が『県産材の利用促進』を統一意識として、今こそ本気・本音の取り組みをしなければならぬ時がきた」と、強い決意を語る。鳥取県県産材・林産振興課の村上哲朗課長も、「住宅着工数の減少、木造住宅に対する嗜好の変化、建築用材のストックや規格・品質の統一など、県産材利用促進の課題は山積しています。見極めながら一丸となって進めていきたい」と続ける。

まずは現状把握として、「県産材製品が使われない理由」を探ろうと、事務局である県が工務店にアンケート調査を実施した。しかしペーパーの回答では実態が見えづらく、直接のヒアリングに切りかえて再調査。現在、その結果を分析し、今後の方策について関係業者と意見交換を行っている。

「山から木材が切り出され、製材として流通し、地域住民が県産材の家を建てる。その流れをつくり出し、山に利益を返したい。そして再植林をして山に投資してほしいんですよ。それが私の理想」と前田会長。

木材の供給と森林への還元が永久的なサイクルを成す循環型社会のビジョンを胸に、山がめぐり始めるきっかけを作ろうと奔走している。



木づかいの国とつとりを実現する会  
0857-26-7307  
(鳥取県県産材・林産振興課)



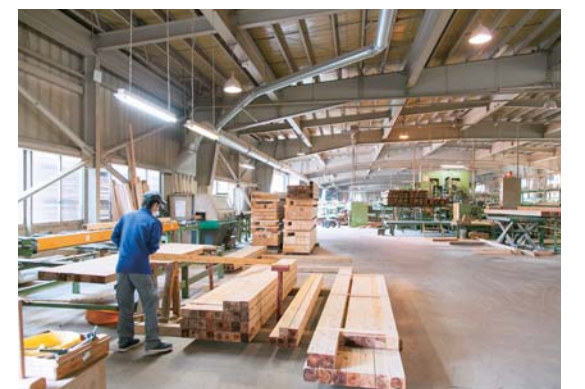
昨年2月、境港市にある日新バイオマス発電株式会社は、県内初となる木質バイオマス発電（※1）の稼働を開始した。発電には、間伐材を細かく砕いたチップが必要で、これが間伐材の有効利用につながる。林業関係者は早速、県内の木材供給を進行・管理する鳥取県森林組合連合会を中心に「鳥取県木質バイオマス安定供給推進協議会」を設立、燃料供給に協力する体制を整えた。現在、年間約4万トンのチップを納入している。

同協議会会長の前田幸己さんは、「林地残材の搬出は、木材生産と環境保全という2つのメリットを持つ。この流れがスムーズになれば、山は社会に貢献できる」と喜んでい

る。「今年12月に鳥取市の三洋製紙株式会社にもバイオマスボイラーがきます。うちからチップを直納する予定」と語るのは、若桜木材協同組合の代表理事・長尾範通さんだ。同



木を小さく砕いたチップ。これがボイラーなどのさまざまな燃料になる



各地から伐採された多種類の木を使用目的に沿った形に裁断して仕分ける製材所

と開発に挑むのは、鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会。今年9月、内装材のオリジナルブランド「とっとり杉ごころ」「とっとり松ごころ」を発表した。県産の杉・松を使用した床板・腰板で、無垢材（※4）の心地よい感触と、スリット加工により反り・たわみが出ないのが特徴だ。また、土足で歩いても傷が付きにくい杉の床板、燃えにくい内装材の開発も検討中で、会長の霜村將博さんは「建築業界に新風を吹き込みたい」と目を輝かせている。

このように各関係業者は知恵を絞り、あの手この手で県産材の消費拡大に向けて策を打ち出している。



鳥取市内の老人福祉施設に採用された杉の内装材。木目の違いを上手く生かしたデザインが好評(写真提供:鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会)



内装材オリジナルブランドのロゴ  
(写真提供:鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会)

## あの手この手で消費拡大へ

組合は、杉と松を使った柱・梁・角材・板などの構造材をメインに作る大規模な製材所。サイズを多様に取りそろえ、ロットの大小にかかわらず顧客の細かいニーズに柔軟に対応。近年はチップ加工・乾燥の設備も整え、構造材にならないC材（※2）はチップにして町内宿泊施設の木質バイオマスボイラーに供給している。

目指すのは、若桜町産材をすべて地元で製材すること。「現在B材（※2）はそのまま合板会社に販売して

## 住民主体で山と町に潤い

「軽トラとチェーンソーで晩酌を!」。ユニークなキャッチフレーズを掲げ、2010年10月、「智頭町木の宿場プロジェクト」がスタートした。林業後継者不足、搬出コスト高、木材価格低迷で、山林に切り捨てられている間伐材を集めて出荷。それを地域通貨「杉小判」で買い取ることで、山の環境保全と地域経済活性化を促す取り組みだ。

09年12月に岐阜県恵那市で始まった「木の駅プロジェクト」の智頭町版で、山の現状を憂い、智頭町百人委員会の農林業部会で検討の声が上がったのがきっかけだという。

春から初冬にかけて、2カ月に1回のペースで搬出作業を行っている。地域住民や県内大学生らが参加、実行委員会メンバーに教わりながらチェーンソーで木材を2メートルに玉切りし、力を合わせて担ぎ出す。集めた材は6000円／トンで杉小判に引き替えられる。

「私はいつも杉小判で散髪するんですよ」。笑顔でそう答えるのは、智頭町木の宿場実行委員会の委員長・小林一晴さんだ。杉小判1両（1枚）は1000円分に相当、紫色の「木の宿場」のぼりを掲げた40以上の店舗で使用可能。山が綺麗になるうえ商店街にもぎわう、プロジェクトは二重の効果を生んでいる。ㄨ



町内の小学生がイラストを描いた杉小判

### 智頭町木の宿場プロジェクト



間伐材を載せた軽トラがズラリ。住民自らが汗をかき、まちの活性化に一役買う(写真提供:智頭町)



チェーンソーの使い方を実行委員のメンバーに教わりながら間伐する住民たち(写真提供:智頭町)

ㄨ 当初は集めた材の販路開拓に苦労したが、今は年間出荷量の約300トンすべてを智頭町営温水プールの薪ボイラー用に出荷。ようやく利益も出始め、ホッと胸をなで下ろしているという。しかし進化の歩みを止めるつもりはない。小林さんは「今後を見据え、次世代の仲間を増やしたい。地元の若い林業家が協力してくれているので、連携を図りながらやっていけたら」と、山と町のビジョンを描き続けている。

☎ 智頭町木の宿場実行委員会  
〒 八頭郡智頭町郷原238  
☎ 0858-75-0181 (株式会社サングリーン智頭)

☎ 鳥取県木質バイオマス安定供給推進協議会  
〒 鳥取市湖山町西2丁目413  
☎ 0857-28-0121 (鳥取県森林組合連合会)  
☎ 若桜木材協同組合  
〒 八頭郡若桜町若桜1344-1  
☎ 0858-76-5100  
🌐 <http://www.wakasamokuzai.or.jp>

☎ 鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会  
〒 鳥取市叶122 西垣ビル3号室  
☎ 0857-30-5490 (鳥取県木材協同組合連合会)

- ※1 木質バイオマス発電＝木質バイオマスとは、伐採された樹木や枝葉、製材で生じる樹皮、おがくずなどで、これを燃やして発電する仕組みを指す。
- ※2 B材・C材＝木材は品質や用途によって分けられる。その通称がA～D材。A＝角材がとれる真っ直ぐな木材、B材＝接着剤で張り合わせた合板や集成材に使用、C材＝細い木や曲がった木でチップや木質ボードに使用、D材＝搬出されない残材など。
- ※3 CLT (Cross Laminated Timber)＝板の層を互いに直交するように積層接着した厚型パネル。
- ※4 無垢材＝合板や集成材ではなく、使用する形状で丸太から切り出した木材。天然木本来の風合いを持ち、室内の湿度を調整する働きもある。





育てるために残す木と、間伐で倒す木を見極める力はいかなりの経験が必要という



## 若き担い手① 智頭ノ森ノ学ビ舎



「怪我をしないように、まずはしっかり正しい知識を。その後は、楽しみながら林業に従事してほしい」と大谷さん

● 智頭ノ森ノ学ビ舎  
 ☎ 090-2007-4420 (大谷さん)  
 🌐 <https://www.facebook.com/morimanabiya/>

## 「学び大切に肩肘張らず」を推進

面積の93%が山林という緑豊かな智頭町。2015年9月、その町有林をフィールドにした「林業の学校」が誕生した。「智頭ノ森ノ学ビ舎」だ。木の伐採・搬出方法や道具の使い方、経営など林業に必要な知識・技術を修得しようと地元の若い林業家や林業に興味を持つ移住者らで結成した団体で、毎月のように「林業塾」やワークショップを開催している。

に興味を持つ人が増えてきました。だけど、気軽に学べるところがない。危険が伴う仕事だけに、正しい知識・技術の修得は必須。魅力や必要性も含め林業を学べる場所をつくりたかった」と、設立の思いを語った。これまでにチェーンソーの安全講習、作業道敷設、測量や枝打ち、林業経営などを学んできた。智頭町の協力により、管理委託という形で58軒の町有林を実技の場に活用できている。メンバーのスキルはめきめき向上中だ。プロの大谷さんでさえ「我

流で覚えていた基礎を一から学び直せる」ことが嬉しいとか。「いずれは間伐材の収益で、この山を回していけるまでになれば」と夢を膨らませている。きっかけは2年前、大谷さんが林業先進地であるオーストラリアを視察したこと。「技術より何より、森林・林業教育が徹底されていることに驚きました。子どもや山主（山の所有者）には森林の大切さを教え、人材育成やキャリアアップのための教育・研修も充実。安全教育により山での事故も少ない。だから国民が木を愛しているし、林業が『憧れの職業』になっている」。教育の重要性を目の当たりにした。

「智頭ノ森ノ学ビ舎」では、林業を真剣に学びつつも、実際の取り組み方は、その人なりでいいと肩肘張らない。「半林半X」（兼業）でいいと思うんです。昔だって田んぼなんかをやりながらの林業だったわけですから」。メンバーには農家や力

レー屋さんもいて、半林半農、半林半カレーと自分たちの生活スタイルに無理なく林業を取り入れているのが面白い。大谷さんが近くの山で間伐作業を見せてくれた。小鳥さえずる杉林の中、直径30cmほどの木がチェーンソーで切り倒されると、周囲に針葉樹独特の芳香がぷーんと立ち込める。一瞬にして心がゆるりとほぐれ、林業の魅力が少し分かった気がした。

も」と、仕事に対する誇りを共有できていることを喜ぶ。

いま間伐している木は、おおよそ樹齢50～60年。70～80代の人たちが若い頃に苗を植え、下刈りや枝打ちをして大切に育ててきた木だ。「近年ようやく利益を生み出せる状態になっている。僕たちが間伐することで、若い時分に苦勞した山主さんたちの遅い年金代わりになれば」との思いで、今日も山に入る。

● 株式会社神戸上農林  
 ☎ 日野郡日南町神戸上3337-3  
 ☎ 0859-83-1181



おそろいのオレンジ色の作業服に身を包んだ若き、山師（社員）たち（写真提供：神戸上農林）



## 若き担い手② 株式会社神戸上農林

中国山地の脊梁を成す1000m級の山々に抱かれたここ日南町にも、林業で町を元気にしようと奮闘する若者たちがいる。よく目立つオレンジ色の作業着をまとい、チェーンソー片手に山に分け入る彼らは、株式会社神戸上農林の社員たちだ。20～40代の若い世代ばかり、しかも全員地元出身者。それは「自分たちの地域を、自分たちの手で守りたい」と願う、代表取締役・内田敦郎さんのこだわりだ。

内田さんは、20代で実家の稲作を継いだものの米価は下落の一途で、農業一本でやっていくことに限界を感じていた。

そんなとき目に入ったのが、杉や桧が茂る周囲の山林。「これだ」と思った。知識はほぼゼロ。知人の林業家に教を請い、必死にノウハウを身につけたという。最初は稲作の合間にやる程度だったが、山の仕事は増える一方で、「今受けているものだけでもあと3、4年かかる」ほどに。

鬱蒼としていた山に、地面まで陽が入るようになるとやりがいを感じるという。その思いは社員も同じようで、「もう他の仕事はしたくないって言うんですよ。木を切るにしても一本一本状況が違うので、絶対に同じ作業がないことが魅力なのか

全員が地元出身者、山主の思いを継承





# 温もりに包まれた空間

片流れの屋根、黒い焼杉を張ったオシャレな外観にひとしきり感心した後、住宅の中へ。一歩足を踏み入れた途端、本当の感動は家の中にこそあったのだと分かった。杉の床板がこれほどまでにサラサラで、柔らかい感触だとは。いきなり鳥取県産材の実力を見せつけられた。

鳥取市鹿野町にある黒崎智治さんのお宅は、吹き抜けのリビングを中心にした「オール県産材」の住宅だ。「地元のものを使うのが一番自然で、その土地の環境に馴染むんじゃないかと思って」。智治さんは県

産材住宅を選んだ理由を語った。木材のベージュと洋漆喰壁の白を基調としたリビングでは、大開口の窓からのどかな田園風景が広がっている。まるで1枚の風景画を見ているようだ。

建築は3年前。「家を建てるなら絶対この人」と決めていた建築士に依頼したところ、その設計事務所が参加する「鳥取エコハウス推進協議会」(※5)の規格プランを勧めら

れたという。県産材100%の長期優良住宅で、基本設計が決まっていることで手の届く価格設定に。オプションでデザイン変更も可能なことから、若い夫婦の希望に十分応えるものだった。

県産材使用の住宅建築は鳥取県の補助金対象で、58万円を受けた。さらに、協議会経由で「地域型住宅ブランド化事業」の補助金100万円もプラスされ、資金的に大いに助けられたそう。

長男・智生くんのお気に入り、秘密基地みたいな「階段下」。妻の由起さんが「よく頭をおつけてるけどね」と笑うと、「打っても痛くないもん」と反論。杉板の柔らかさを幼い彼なりに実感しているよう。居心地のいいリビングに、家族の笑い声が広がる。県産材を使ったその空間が醸し出す温かさにふんわりと包まれた。

柔らかく暖かい杉材は冬でもひんやりしない



## 新築一戸建て最大100万円助成も

■ 県の「とっとり住まいる支援事業」 ■

鳥取県は木造住宅の建設を支援する「とっとり住まいる支援事業」を実施。一定要件を満たすと、新築は最高100万円、改修では最高50万円の助成がある。また子育て世帯や3世代同居など、ライフスタイルに配慮されたメニューもあり、自宅の新築・購入やリフォームの際に木材利用への背中を押す魅力的な制度だ。

同事業は、木造住宅や県産材の使用を促進し、地場産業の振興と県民の住まいづくりを支援する目的で2014年度にスタート。県内の建設業者が施工することなどを条件に、さまざまなメニューが

用意されている。

例えば、木造の一戸建て住宅で県産材を10立方メートル以上使用する場合、40万円助成され、県産材の使用量がアップすると5〜8万円上乗せされる。さらに世帯条件によっては5〜10万円の助成も。このほかリフォームの場合にも県産材使用で最大25万円の助成や、新築と同様に世帯条件による上乗せもあり。

希望者は、着工前に申請を行うことが必要。募集期間は2017年3月31日まで。

鳥取県住まいまちづくり課  
0857-26-7408  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/228385.htm>

## 美しい杉目と優しさ伝わる

しつとりと手に馴染むスモホカパーや名刺入れ、木の笠から光が透ける和モダン照明、木目が美しい曲げわっぱ。木の温かさと優しさがじんわり伝わってくるような木工製品を創り出しているのは、智頭町出身の宮内賢治さん、草刈庄一さんが手がけるブランド「ティンバル」。智頭杉を主役に、その特性と時代のニーズを融合した製品はどれも魅力的だ。

はじまりは昨年夏。東京から帰省した際、近所の幼なじみ・草刈さんが家具職人として活動しながら智頭杉で曲げわっぱを作っていると知った宮内さんが、一緒に新しい木工製品を作ろうと、声をかけたのがきっかけだ。

柔らかく傷つきやすい杉は、本来家具や小物に向いていない。しかし「少しでも地元の役に立ちたい」との思いで、あえて智頭杉を使用して商品を開発、冒頭の作品たちを生み出してきた。現在は、曲げわっぱのおにぎりケースを試作中。完成次第売り出す予定だ。

今後、やりたいことは山ほどあるが、「背伸びするより続けていくことが大事」と焦らない。2人のスタンスは、智頭杉が長い長い時をかけて大きく成長していく過程になんとなく似ている。

伝統工芸品の杉の曲げわっぱ。ご飯が冷めにくく、殺菌効果もある。サイズは大・中・小と3種類(写真提供:ティンバル)



「マイペースで細く長く続けていきたい」と話す宮内さん(写真右)と草刈さん



光を灯せば三日月が浮かび上がる装飾テーブルランプ。モダンで落ち着いた雰囲気を醸す(写真提供:ティンバル)

ティンバル 取扱店舗:BRUNxWORKS (ブランワークス)  
鳥取市瓦町702 0857-23-6406 水曜日  
〒880-0802 鳥取市瓦町702 0857-23-6406 水曜日  
<http://timbar-japan.com>  
<https://www.facebook.com/timbar.japan>

■ ティンバルの杉製品 ■

「鳥取エコハウス」のプランで建てた黒崎家。30坪・35坪・40坪などのパターンから選べる



住宅データ/建築年月:2013年9月 建物金額:2150万円  
延べ床面積:約32坪 間取り:2LDK

※5 鳥取エコハウス推進協議会=木造住宅に関わる事業団体と鳥取県が2011年5月に設立。県産材を多用した環境性能の高い木造住宅「鳥取エコハウス」を若い世代にも購入しやすい価格で提供できる仕組みを作った。  
<http://tottori-site.com/about.html>

## 木育広場やキャラバンでPR

木と子育てを結ぶ「木育」を推進する鳥取県は、木育スペース「赤ちゃんと木の広場」(木育広場)の製作や、木育キャラバンの開催、市町村や企業への支援「木育推進事業」などで、木のぬくもりや活用をアピールしている。

木育の推進は、子どもたちの健やかな成長を促すとともに、木を使うことで森を育てる意識の醸成を図ることが目的。

「木育広場」は、鳥取環境大学の学生がデザインした作品を製品化。床や壁に県産材を使用し、滑り台やトンネルも備えたほか、ままごとセットなどの玩具もある。1セットは鳥取市桂見の森林公園「とっとり出合いの森」に常設。1セットは県内の保育所やイベント用に巡回で貸し出しており、幼児は大はしゃぎ、保護者からも「木の温かみが感じられる」と好評だ。

また、「木育キャラバン」は、一昨年から3回開催。国内外で製作された木の玩具を300点以上集めたほか、講演やシンポジウムなどで研鑽を深め、多くの集客を得た。このほか「木育推進事業」では、新生児への木の玩具贈呈や、保育園への木のおもちゃ導入などの際の補助を行っている。

今回の「木育広場」巡回は、2017年2月2〜27日の日程で鳥取砂丘こどもの国で実施。

鳥取県林政企画課  
0857-26-7300  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/236296.htm>



ここにこの

Human  
Life



たとえば、博物館などで私たちの知的好奇心や  
探求心を満たしてくれる展示物。  
また、歴史的事実や物語を伝える記録の数々。  
長い年月を経た貴重な資料を守り、未来に伝えるためには、  
「修復家」という専門職の存在が不可欠。  
ふるさと鳥取で工房を開き、  
その道を切り拓いたのが秦博志さんだ。

秦

Hata  
Hiroshi

資料修復家

博志



文／島 香子 写真／萱野 雄一

郷土 LOVE の紙芝居師

ゴロ画伯の  
絵日記帳



拝む姿で1300年をPR



住民自身が  
観光資源に

そうだ！  
大山を拝もう



▼ゴロ画伯プロフィール▼

本名・松村宏（まつむらひろし）1962年生まれ。  
米子市出身、筑波大卒。朝日新聞社勤務を経て  
ニュース漫画家・イラストレーターとして独立。  
映画「おくりびと」の絵コンテ担当。現在は爆  
笑エンターテインメント、地域おこし、心の病氣予  
防などをテーマに、自作自演の紙芝居師として  
活動中。夢は「だらず様」（地域おこしのキャラ  
クター）と漫画大仏殿の建立。

大山が日本遺産に選ばれ、まもなく  
開山1300年を迎える（※2018  
年）というんだけど、目に見える変化が  
あるわけでもないから、県民には実感が  
沸かない。盛り上げるにはどうしたらいい  
んだろ。地域おこしがライフワーク  
の「ゴロ画伯」は考え込んでいた。とはいえ  
金はないし、力もない。人脈もなければ  
人望もない。ナイナイ尽くしだけど、あ  
きらめきれない。  
困ったときの神頼み。大山を拝んでみ  
よう。あつ、それだー言葉通り「拝もう  
大山運動」がいい。ひらめいた！これ  
ならお金もかからず誰だって出来る。  
もともと地元には、日々の平穏と感謝  
を込めて、朝な夕な大山を拝む習慣が  
ある。自然そのものを信仰する、日本古  
来から続く美しい風習だ。忙しい生活  
に追われて廃れつつあるこの伝統を取  
り戻すのだ。将来を担う子どもたちに  
も伝えていかなきゃ。  
新幹線に乗った外国人が驚くのが、車  
両に入るとき必ずお辞儀し、出ていくと  
きもワザワザ振り返って礼する車掌さ  
んや売り子さん。これも礼節を重んじ  
る日本の特長だ。  
同じように、大山を拝む地元民の姿  
は外国のお客さんには新鮮に映るだろ  
う。わたしたち住民自身が観光資源に  
なるというわけだ。大山に注目が集ま  
るこの際、皆さんも大山遥拝運動にぜひ  
ご協力を。



## 時代と対峙する ワクワク感と緊張感

資料修復とは、長年保存した文書・書籍などの紙媒体において、紙の破れや汚れなどを修理し、保存処理までを行う仕事だ。鳥取県内では、県立博物館の専門職員のほか、屏風や掛け軸を製作する表具師などが、伝統的な表装技術の一つの裏打ち法で資料修復を手がけてきた。

2005年、生まれ育った南部町に修復工房を立ち上げた秦博志さんは、かつての伝統的な手法に加え、科学的な劣化診断、予防、化学的な保存処理までを総合的に行う。資料保存を専門に手掛ける、県内唯一の存在だ。仕事の依頼元

時代や冊子の種類によって綴じ方もさまざま。修復前に慎重に見極める



## 歴史に敬意、黒子に徹する

は、県立博物館をはじめ、歴史資料として重要な県の公文書や行政資料などを収集・保存する県立公文書館、そして県内各地の図書館などの公共施設・団体がほとんどだが、中には、個人から家系図や古いアルバムを持ち込まれることもある。

「資料を最初に手に取るときは、ワクワクします。何度も直され大



漉きばめ機に古文書をゆっくり浸し、虫穴部分だけに和紙を充填していく



事にされてきたものの、長い間忘れられてきたけれど価値を見直されたものなど、それぞれにこめられた歴史や、その時代の人々の生活の積み重ねが感じられ、襟を正す思いで作業しています」

## 貴重な資料を保存活用 予防医学のお医者さん

現在、手掛けているのは1805（文化2）年の鳥取藩史料『参勤交代御下り道中日記』（県立博

年後に少しでも良い状態で次の世代に渡すことが大事です」理想的には何も足さず何も引かず、現状のままで引き継ぐことが一番だが、明治時代以降の資料に見られる化学的要因の劣化は、そつと保管するだけでも進んでしまう。だからこそ、複合的な症状への対処が必要になる。「どのような手法を選択するかは、いつも迷いながらの作業です」と明かす。

過去を修復するこの仕事は、「現在」活用するだけではなく、100年、200年先の「未来」にバ

トンを渡す役割を担っているのだ。

修復はその技術だけでなく、本の綴じ方、製本技術など、紙媒体を取り巻く総合的な知識も必要だという。この道20年以上の経験から、それらを合わせ持つ秦さんは、県内各地の図書館や公民館での自分史講座、製本講座などの講師を務め、手製本の普及や資料保存活動などにも意欲的に取り組む。

※抗酸化処理＝筆跡の錆止めのようなもので、これをしておかないと紙に穴が開く。

### はた・ひろし

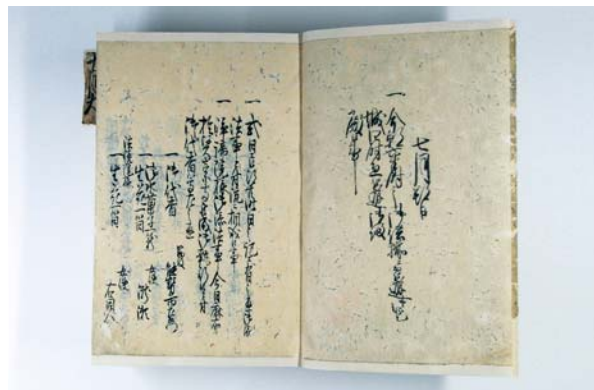
1965年、南部町（旧西伯町）生まれ。1990年、武蔵野美術大学油絵学科卒業。1994年～2004年、有限会社東京修復保存センターに在籍し、資料修復技術を磨く。2005年、南部町に修復工房「HATAStudio」を開設。県内を中心に文化財や書画の修復に携わりながら、手製本の普及、資料保存など幅広く活動。文化財保存修復学会会員。

## 100年先の未来へバトンを渡す

### 20年以上の経験で 広がる活動領域

「今現在、目の前にあるモノを綺麗に直すことよりも、100

コツコツと1枚ずつ作業を重ねる秦さん



虫食いだらけの古文書（写真上）が修復によって見事に蘇る（写真下）



## 軽食喫茶ハマ 米子市



## 古今時代屋

やじこ  
だこん

ここに  
あるカ  
タチ

文／稲嶋 正彦  
写真／田中 良子

店の全面を覆うツタは、冬になると枯れるが、春には再び新芽が出て、夏には緑のカーテンとなる



年齢を感じさせない手際の良さであったという間にスパゲティが完成。変わらぬ素朴な味が常連客らに人気だ



### 【軽食喫茶ハマ】

所 米子市紺屋町135  
営 8時30分～16時30分  
無し 休 日、祝日

レトロな雰囲気を醸し出すアンティークが所狭しと並ぶ店内

## 時が止まったくつろぎの場所

喫茶店を舞台にした歌をあまり聴かなくなった。友人と、恋人と、あるいは独りで、恋を語り、人生を考え、笑い、泣き、時を忘れてしゃべりあう…。まるで思春期の入り口は喫茶店のドアの向こうにあるかのようには思えたものだが。

そんな懐かしさを感じさせる店は、まだいくつか残っているが、この「ハマ」は、加えていくつもの驚きがある。まず、その外観。入り口がどこか分からないほど全面をツタが覆う。店主の浜先幸子さんによれば、「亡くなった主人が、どこから苗を持ってきて植えたら、こんなになっちゃった」のだそうだ。

2つ目の驚きはその幸子さん、86歳の今もコーヒーを淹れ、軽食を作る。以前は会

社員らで賑わい、「厨房も3交替で人を雇っていた」らしいが、今は娘の麻生さんと2人で、「趣味で開けてるようなものだから」と笑う。

さらに3つ目がメニューの値段。コーヒー1250円、スパゲティ400円と格安だ。しかもスパゲティの上には卵が乗り、吸い物とフルーツを添えたサラダまで付いてくる。重いフライパンを振って、手早く仕上げるのも、もちろん幸子さんの仕事だ。「主人には『客としゃべりこむんじやないよ』とクギを刺されていた」というものの、常連客が多い今では、つつい、近くの椅子に座って話に加わってしまうことも。歌にはならなくても、喫茶店という空間に流れる時間は昔と変わらないようだ。

驚きはまだある。古い掛け時計が壁一面に。50個以上はあるだろうか。最近張り替えたという壁紙から浮かび上がる様は圧巻。そこにウミガメのはく製が混じっているのもユニークだ。他にもコーヒーミルや電話機などのアンティークが店内あちこちに。なお、外のツタは冬になると枯れるので、目印に訪れようという人はご注意を。





【19市町村の女性団員数】

|                |               |
|----------------|---------------|
| ●鳥取市 21 (1302) | ●琴浦町 7 (157)  |
| ●米子市 21 (515)  | ●北栄町 4 (102)  |
| ●倉吉市 11 (542)  | ●日吉津村 1 (32)  |
| ●境港市 6 (102)   | ●大山町 3 (159)  |
| ●岩美町 17 (540)  | ●南部町 2 (131)  |
| ●若桜町 3 (60)    | ●伯耆町 10 (146) |
| ●智頭町 21 (439)  | ●日南町 0 (103)  |
| ●八頭町 12 (129)  | ●日野町 7 (59)   |
| ●三朝町 12 (323)  | ●江府町 8 (57)   |
| ●湯梨浜町 6 (183)  |               |

(単位・人)

※2016年4月1日現在。カッコ内は消防団員の実員数。  
(県消防防災課調査)

地域に密着した活動で火災や災害に備える市町村の消防団。全国的にも男性団員は減る中、女性団員は増え続け、鳥取県内でも今年、過去最高の172人になった。消防器具の操作法を競う全国大会で、優秀な成績を収める団も。仕事や家庭と両立させ、地域の安全のために力を尽くす団員の活動を紹介する。

文／松村 亜紀子 写真／山崎 登

## 頼もしき女性消防団員たち

## 10年で2.5倍にも増加

【鳥取県の消防団員数推移】

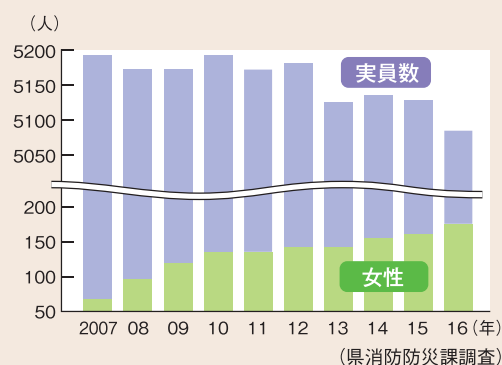


図 鳥取県消防防災課  
☎ 0857-26-7065

地域防災力の中核を担う消防団は、全国的に男性が多くを占めており、県内でも、今年の消防団員数5081人のうち、約96.6%が男性だ。女性団員はわずか3.4%の172人だが、この10年で約2.5倍に増えており、全体数がわずかに減る中で、大健闘している。女性団員がいる自治体も、4市町から18市町村に増えた。

かなやま

県消防防災課の金山雄哉さんによると、全体数が減っているのは、高齢のため団を離れる人がいる一方で、若い世代の入団が進まないため。出動手当などは出るものの、実質はボランティア活動で、時間をつくる難しさなどを理由に尻込みする人も多い。

その結果、平均年齢が43.4歳(2015年4月現在)と、やや高齢化も進んでいる。都市部と山間部とを比べると、山間部の方が加入率が高く、都市部での関心の薄さも課題だ。

一方、女性の増加は「東日本大震災などの大規模な災害の経験から、女性の活躍場面があるという意識が高まったのでは」と分析。避難所生活では、介助や心のケアといった部分で、女性にしか気づかない視点も大切であり、最近は救急救命講習への参加率も女性団員が増えている。

「より多くの方に消防団の存在を知ってもらい、団員をさらに増やしたい」と金山さん。女性団員への期待は大きい。



「消防操法大会」に向けて真剣に練習する江府町消防団第3分団の団員たち







## 江府町消防団第3分団

白いヘルメットに紺色の活動服の女性たちが整列。谷口知子副分団長の「操作始め！」の大きな号令に合わせ、てきぱきと小型ポンプのホースを広げ、火元に見立てたボールへ放水する。重い器具を手早く扱い、水の勢いに負けずホースを操る姿が頼もしい。火災の消火を想定した「消防操法」の訓練だ。

女性のみで構成する江府町消防団第3分団（高津範子分団長、9人）の団員たちだ。来年秋に秋田県で開かれる全国女性消防操法大会（※）

に出場が決まっているため、消防署員らの指導を受けたり、男性団員（第1、第2分団）のアドバイスに助けられたりしながら、町内の防災基地で練習を重ねている。時間や正確さ、姿勢まで採点されるため、表情は真剣だ。

結成は2012年。その数年前、当時の全国大会のために作られた「女性消防隊」が解散する際、「せっかくだから続けたい」と高津さんら3人が残り、知人を誘うなどして発足した。

## 全国大会に向け意欲満々

年代はさまざまだが「いつも賑やか。部活動のよう」と和気あいあいの団員たち



「若い世代も入団してくれて頼もしい」と分団長の高津さん



消防操法大会スタートの合図の敬礼の練習。一斉にキリリとした表情で引き締まる

「ちょっとこしやってみん？」と誘われ、好奇心から始めた高津さんは「団の仲間や消防署員さんなど、普段は出会わない人と話せるのが楽しい」という。同じく誘われて加わり、操法の面白さや、仲間とのつながりのために続けているという団員が多い。

※全国女性消防操法大会Ⅱ女性の全国大会は2年に1度。県からは東・中・西部地区が持ち回りで代表が出場している。大会では、設置された防火水槽から給水し、火災現場を意識した火点と呼ばれる的にめがけて放水、撤収するまでの一連の手順を演じる。



## 地元での啓発活動にも力

職業は、介護士や会社員、図書館勤務など多様で、町外に勤めていたり、夜間勤務があったりと、環境もさまざま。介護士の田枝由起さんは「勤務と重なって研修に行けないときもあり、仕事とのバランスが難しい」と漏らす。それでもなんとか時間を合わせて活動。銀行員の吉川幸さんは「地元を自分の手で守りたい気持ちがあった。家族にも協力してもらって続けています」と、仕事や家庭以外での社会参加を目的に入団した人もいる。

職場や学校での救急救命講習に役立てるため、多くの団員が応急手当指導員の資格を取った。保育園には



団員手作りの紙芝居。保育園などに出向いて上演、防災の啓発活動も行っている

江府町消防団第3分団  
江府町総務課 0859-75-2211

手作りの紙芝居を持参し、「火あそびとやけど」「人が倒れていたら」など、わかりやすく防災知識を伝えられている。

町内ではかなり知名度が上がってきたが、「さらに活動の幅を広げて、男性団員の負担を少しでも担いたい」と、谷口さん。高津さんは「団に入って私たちの防災意識も高まった。地元の方にもっと知識を伝えたい」と決意を新たにしている。

全国大会での活躍が追い風になるはずだ。

台詞や動きはあらかじめ決められており、「素早く的確に美しく」を競う





## 鳥取市消防団女性分団



親子連れで賑わった今年9月の「とっとり防災フェスタ2016」

(鳥取市)で、鳥取市消防団女性分団(安達典子分団長、14人)は、救命劇「鳥取砂丘で」を披露した。

大きなラクダの着ぐるみや、方言を使ったセリフで笑いを誘い、熱中症への備えや倒れた人への応急処置を紹介する。観客は夢中で見ているうちに救命の知識が頭に入る。

2008年8月に分団が発足した時から、救命劇に取り組んでいる。「因幡の白ウサギ」「水戸黄門」などの物語に、救命のポイントを盛り込

## 「目の前の命を救いたい」



「訓練をしていれば、男性と同様に出来ることはたくさんある」と分団長の安達さん



副分団長の山本さんは「災害の際などに、現場で即戦力になるように日頃から訓練を続けていきたい」

んだ台本はオリジナルで、小道具もすべて手作り。熱演には理由がある。「救命の知識があれば、目の前で倒れた人の命を救うことができる。それを多くの人に伝えたいんです」と安達さん。部長の山本康子さんは、実際にそん



「いざという時に役に立てたことが嬉しかった」と部長の山本さん

な現場に遭遇した。旅先のドライブインで、倒れた男性に胸骨圧迫などを行い、救急隊につなぐことができた。山本さんは元看護師。それでも「分団で実践していなければ出来なかった」と振り返る。

副分団長の山本さおりさんは「大きな自然災害を前に、自分にできることが何も浮かびませんでした。まずは自分の知識を増やしたい」と熱く話す。

個人の能力を磨きながら、分団としての活躍の場を広げる努力も続けている。そのひとつが県や市の操法大会へのオープン参加だ。男性は県大会の勝者が全国大会に出場するが、女性は県内3地区で持ち回りの

ため県大会もない。どんなに技術を磨いても、男性と隔年のため次の全国大会へのチャンスは6年後になる。同分団は、2013年に全国7位に輝き、安達さんは女性として県で初の優秀選手賞を受賞。さらに上位を目指したい気持ちは大きい。「次がなければ覚えた操作技術もそこで終わってしまう。女性も県予

選を開けば、全体のレベルアップにつながる。後輩たちのためにも、その道筋をつけたいんです」。オープン参加は、そのための第一歩だ。鳥取空港の消火救難訓練では、これまで救助者の搬送を男性消防団員が担当していたが、昨年初めて女性分団も訓練に加わった。最初不安もあったが、テキパキと役目をこなす姿を見て、周囲に感心された。「私たちにもできる、と自分たちで声を上げていかないと」と実感した。情報発信のために開いたホームページでは、過去の救命劇の名場面などが楽しめる。「活動を絶やすことなく広めていきたい」との団員たちの熱意が、地域の安心を支えている。

## 知識蓄え、救命劇で訴え



方言を交えた親しみのある寸劇で、救命法などを紹介。神話を題材にしたものなど、数パターンある。衣装などは全て手作り

(とっとり防災フェスタ2016)



「鳥取市の範囲が広いので、住まいもバラバラで集まりにくいのが悩み」と言いつつも、都合をつけあい練習に励む

☎ 鳥取市消防団女性分団  
☎ 鳥取市危機管理課  
0857-20-3127  
🌐 <https://sites.google.com/site/tottoriwhiterabbit/>



鳥取の  
うま味

本場と地物食材の  
華麗なる出会い



■ ■ 真心あふれるイタリアン ■ ■

肉or魚を選べるランチ1800円(税別)。フレッシュ季節野菜のサラダから、パスタ料理にドルチェまで、いずれのお皿も美しくボリュームもあり実に良心的。しっかりとした味付けながらさっぱりといただけ、最後の一口まで心地いい。



イタリア料理びーどろ亭

所 鳥取市国府町新町2丁目254  
(産業道路沿い)

☎ 0857-26-3908

営 12時～14時／18時～21時

休 火曜(祝日の場合は営業)

Web http://foodpia.geocities.jp/bidoro1986/

イタリア産のやわらかな子牛肉、濃厚な旨味あふれるスキャンピ(手長海老)、ナポリ伝統の幻のパスタとも呼ばれる「ヴォイエロ」(※1)…。本場の食材に徹底してこだわる。

一方で、鳥取市内の賀露港で、その日水揚げされた新鮮な魚貝に、自家菜園で栽培する季節の野菜の他に地物食材も厳選、本場の食材と合わせ美しく美味しい一皿に仕上げる。

今春、31年目を迎えたイタリア料理「びーどろ亭」は、長く地元で愛されているトラットリア(※2)だ。

「朝、収穫できた野菜でメニューを決めるので、1日の内でもメニューが変わることもありますよ」とオーナーシェフの岸

本勢治さん。奥様と二人三脚で、夏に実ったトマトでドライトマトを作ったり、日本ではまだ珍しい黒キャベツを植えたりと、お客を楽しませるための地道な努力を決して惜しまない。

寒さ増すこれからは、牛肉のイタリア風煮込みなどが恋しい季節。食後には、ドルチェ(デザート)に、真のナポリコーヒーといわれる「KINBO」(※3)のエスプレッソを。

食材選びから仕上げまで、ひたすら丁寧な仕事を貫くびーどろ亭。その気概で供されるイタリアンだからこそ、心までじんわり温めてくれるのだ。

文/矢倉 みゆき 写真/佐野 明美

※1 ヴォイエロ＝昔ながらの製法を変えず、限定販売されているため、幻のパスタとも称される。ソースのからみが抜群でコシのある歯ごたえが特長。

※2 トラットリア＝比較的小さめの気軽に入りやすいイタリア料理店。

※3 KINBO＝ナポリを代表するコーヒーメーカー。

約190年の風格が漂う中川酒造の玄関



## 柔軟さで伝統守り未来をつむぐ 中川酒造(鳥取市)

各地の地酒に脚光が当てられるようになってざっと40年。あらためて「地酒って何だ?」と問うてみる。

鳥取県東部に江戸時代から約190年(創業1828年)続く造り酒屋がある。中川酒造だ。7代目蔵元・中川盛雄さんは探索する。フランスの格付けワインは、「その生産地の地域性や伝統や品質をきびしく守っている」と知る。

そこで決意した。「大手蔵元では造れない酒を、鳥取県にしかない米と水で造りたい」。奔走する。そして見つけた。「強力」という固有の酒米。戦後に絶滅したのを苦心して復活した。水は近くの源太夫山の麓の井戸水で弱軟水。芳醇で味切れがいい。これぞ真の地酒。その名もズバリ「強力」。「さ、強力で乾杯しましょう」。(※)

この蔵には、あぶないお酒、という強烈な別称がついている生にこりも。「なぜ?」と思っていると、中川さんがニヤリ。「とにかく危ないので。栓を開ける前に瓶を振るのは厳禁らしい。

仕込みのタンクは近年、大きなものはやめてコンパクト化した。「時代に合わせた変化は必要」と中川さん。この柔軟さが、伝統を守りつつ未来をつむぐ。

※地酒での乾杯を推進する「乾杯条例」制定の動きが全国の自治体で広がるなか、鳥取市でも2016年6月に施行された。

☎ 中川酒造株式会社

所 鳥取市立川町2丁目305

☎ 0857-24-9330

Web http://gohriki.com/index.html



### 【情報メモ】

あぶないお酒とは、「純米吟醸いなば鶴『五割搗き強力』生にこり」。瓶内で発酵するため、フレッシュな微発泡が楽しめる。栓を開ける前に瓶を振るとガスの混和によって吹き出る。「慎重に栓を開けてからゆっくり振る」などの注意点をきちんと説明する必要があるため、販売は専門店や百貨店などに限っている。

文/須崎 俊雄 イラスト/谷繁 淳子



【問】  
公益財団法人  
ふるさと鳥取県定住機構  
【所】鳥取市扇町7  
鳥取フコク生命駅前ビル1階  
☎ 0857-24-4740  
【Web】http://furusato.tori-info.co.jp/

▼IJUターン就職に関する相談  
☎ 0120-307-238  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
▼移住に関する相談  
○鳥取県移住定住サポートセンター  
☎ 0120-841-558  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
○とっとり移住定住ポータルサイト  
【Web】http://furusato.tori-info.co.jp/iju



捕獲したザリガニの様子を観察する桐原さん夫妻



【PROFILE】  
◎家族構成／夫・桐原佳介さん、妻・真希さん、  
長女(16歳)、長男(13歳)  
◎移住前の住まい／神奈川県大和市  
◎移住時期／1999年8月米子市→  
2003年9月南部町(旧西伯町)へ  
◎現在の仕事／佳介さん  
団体職員(米子水鳥公園主任指導員)  
真希さん  
自然観察指導員  
(日本自然保護協会登録)

南部町内で見つかった動物は、記録のため、はく製にして保存(写真上)。ザリガニは数日、泥抜きをしてから食する(写真下)



## 生き物との触れ合いで 里山の魅力を発信

### 環境保護を楽しく啓発

Iターン4年目の2003年9月には、南部町に新居を構えた。自然の中で子育てをしたいという願い通り、家の近くの水路で魚やサワガニを獲ったり、田んぼのカエルと触れ合ったりしながら、この地で生まれた子どもたちはのびのび育った。

「米子市街まで車で約20分の里山に、豊かな自然環境の象徴であるブッポウソウ、コハクチョウ、オオサンショウウオの3種が生息する自治体は、山陰地方でも珍しい。南部

09年には、地域の有志と桐原夫妻で「とっとり・なんぶ手自然ネットワーク」を立ち上げ、町内の生き物調査、保全活動、普及啓発を目的としたエコツアーなどを行っている。なかでも、釣りと試食をセットにした「ザリガニ(外来種捕獲作戦)釣り」は、大反響を得ている。最前線で活動する真希さんは「里山の生き物ファンを1人でも増やしたい。出会う楽しさを体験してもらおうが、環境保全の啓発につながると信じています」と頼もしい。

南部町民になって14年目。すでに地元以上に南部町の魅力を知る桐原夫妻の元で、里山愛好家は増殖中だ。

※2ザリガニ(外来種)捕獲作戦II外来種のアメリカザリガニは雑食性で、カスミサシショウウオなど絶滅危惧種を含む水生生物や魚類を捕食するため、ザリガニを減らして本来の生態系を蘇らせることを目標に実施。



2人の保護活動は、今では町内に知れ渡り、「珍しい生き物がいる」との連絡がしょっちゅう入ってくるという。「保護啓発活動が実を結んでいるようで嬉しい」と真希さん

共に東京農業大学出身で、学内サークル「野生動物研究会」の同期として出会った2人。1996年の結婚当時、桐原佳介さんは神奈川県横浜市の環境調査会社に勤務しており、真希さんはフリーの自然観察指導員として活動しながら、同県大和市で暮らしていた。

Iターンのきっかけは、99年夏、佳介さんにもたらされた「米子水鳥公園」の指導員募集の情報だった。大学の昆虫学研究室でトンボを研究していた佳介さんにとって、汽水湖・中海(なかつみ)に面する同公園の野鳥をテーマにした環境教育活動や調査研究、湿地保全に携わる仕事は、大きな魅力。

さっそく施設見学や面接に訪れ、短期間の往復で転職と米子市内への転居を決めた。

「2人とも鳥取県は未知の場所でしたが、不安は感じませんでした」と佳介さん。実は夫婦そろって幼い頃から転勤族の家庭に育ったため、慣れもあり、移住には抵抗感がなかった。真希さんも来てすぐに山陰の自然に魅了され、翌年に長女を出産するまで、島根県出雲地方の生物調査(猛禽類などを請け負った。「山陰地方は生き物の分布域が、東北日本と西南日本の境界にあたります。両地域の生き物を同時に観察する機会に恵まれ、毎日がワクワクの連続でした」と振り返る。

### 来た途端、魅せられて

※1 重要里地山＝正式名称は「生物多様性保全上重要な里地山」。人と生き物の暮らしが交わる豊かな里地山を、次世代に残すべき自然環境と位置づけ、環境省が全国500カ所を選定。



真希さんが作成している「もりまき通信」。引越など節目を迎えたとき、家族の様子や近況報告を手紙代わりに記し、親しい友人や身内などに配布。不定期とはいえ、約20頁の大作だ



◎自然観察指導員(南部町)◎

桐原 佳介さん

東京都板橋区生まれ

桐原 真希さん

鹿児島県鹿屋市生まれ

鳥取県西部の中心・米子市に隣接し、豊かな里山環境が息づく南部町。  
希少な生物の宝庫として知られ、2015年には、町内全域が環境省の「重要里地山」(※1)に選ばれた。  
2003年から南部町に定住し、それぞれ自然観察の案内をする仕事で活躍する桐原佳介さん、真希さん夫婦の活動を追った。



経営不振だった観光施設の経営を軌道に乗せ、  
その存在感を示したエムケイ開発株式会社。  
さらに、地元食材の販路拡大から、  
商品開発へと発展。  
鳥取県の観光と食に関わりながら、  
地元を元気にするために奮闘している。



## エムケイ開発株式会社

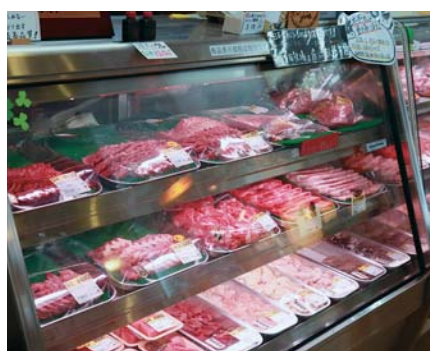
代表取締役 河上 貴一  
設立／2008年5月  
資本金／900万円  
〒西伯郡伯耆町大内樹水高原1069-50  
☎ 0859-52-2420  
🌐 <http://www.masumizu.net>

## 観光と食で鳥取を元気に

「生産者と出会い、その現場を見て、なんとかしたいと思った」と話す河上貴一さん。エムケイ開発の代表取締役だ。生産者の努力に対して、価格が見合っていない現状を打開したいと、まず、地元のブロッコリー農家に声をかけた。

「一緒に売りに行きましょう!」。東京のデパートで販売するや、1時間も経たずに売り切れたうえに、バイヤーからは「日本一美味い」と高評価を得る。続いて畜産農家の鳥取和牛を紹介すると、人気プロガー(※1)が「なに、これ!」とその味を絶賛。このような体験が、生産者の意欲を高め、さらなる品質向上へとつながった。結果、消費者を喜ばせ、生産者も喜ぶ仕組みづくりに成

功。河上さんは「我が社の仕事は、喜ばせ役です」と頬をゆるめる。そもそも同社は、樹水高原(伯耆町)の観光施設を2007年、町から運営委託されたことに始まる。観光リフトを「天空リフト」と名称を変更し、デートスポット「恋人の聖地」(※2)に認定されたことで、全国的



氷温乾燥熟成牛のほか、鳥取和牛オレイン55、大山ハーブチキンなど県産畜産物に特化した精肉直売所も運営

に知名度を上げた。2010年には、同町の「ご当地ファーム山の駅・大山望」の管理も引き受け、これを機に生産者との関係が深まり、河上さんは「観光と食で、地元を元気にしよう」との思いを強くしたという。2014年、米子市の氷温研究所と共同開発し、商品化させたのは「氷温乾燥熟成和牛」。麴菌を使って一気に熟成させる製法は全国的にも珍しく、安全性が高いうえ、うま味が数段増すことで、評判は上々だ。そして今年は、タイのバンコクに県内の食材を使った日本食レストランをオープン。海外進出も果たした。基本ビジョンは、「人とモノの流れをつくること」。鳥取の食を全国さらには海外へと発信し、消費が増えれば、生産も増え地元が元気になる。すると、食が消費者を呼ぶ込む。そこに生まれるのは、人と人との繋がりがプラスの回転となって出来る大きな流れだ。同社の視点は、実に明確でグローバルに広がっている。

文／矢倉みゆき 写真／田中良子  
※1 プロガーIIブログ(Web上の日記や記録)を公開・運営している人。  
※2 恋人の聖地II NPO法人地域活性化支援センターが全国の観光地域の中からプロガーにふさわしいスポットを選定。最初の発表は2006年4月。

すっきりと晴れた日には大山の眺望が見事な「ご当地ファーム道の駅・大山望」  
(写真提供:エムケイ開発株式会社)



南部町は車でよく通りますが、今回の巻頭特集を見て、ゆっくり見回りたいと改めて思いました。母塚山もぜひ登ってみたいです。

(兵庫県神戸市 丹波伊久子)

巻頭特集のなかで、とっとり花回廊の記事がありましたね。初めて行ったのは小学生の頃でした。そこで花の絵を描いて賞をもらった思い出があり、懐かしかったです。また、冬のイルミネーションは、毎年見に行っています。

(鳥取県境港市 三井 遥菜)

特集記事は、それぞれすごい迫力の記事と写真で圧倒されたり、感動して、その世界にとっぷりはまってしまうました。わずかな誌面スペースのなかに、スタッフの方の想いが凝縮され、息遣いやエネルギーのよなものが伝わってくるのです。また毎回、編集後記がとても楽しみです。自然の力の包容力は、きつと言葉にできないほどの力であり、優しいさなのでしょう。女心もイチコクの南部町、是非行ってみたいです。

(奈良県奈良市 大久保 静香)

『とっとりNOW』をいつも楽しく拝見しています。私の知らない鳥取を知ることができ、勉強になります。また今度、鳥取へ旅行する時の参考にしようとも思っています。これからもワクワクするような記事を期待しています。

(京都府宇治市 大谷 とも子)

よく鳥取には出かけています。赤猪岩神社の神話のことは聞いていたので、夫婦で行ってみました。小さな神社でしたが、静かな神が宿られているように感じました。母神の愛の深さを感じ、2柱の女神の力のごさも伝わります。「清水井」までは行けてないので、また出向けた折には足を運びたいです。

(広島県福山市 七川 和代)

板祐生さん、とてもユニークな方ですね。私もいろいろと集めています。最近思い切って断捨離をして、少しさみしくなっています。記事を読んで、もしかしたら、私がいなくなつてから楽しんでくれる人があるかも!と。また集めますわ!!

(徳島県板野町 伊東 令子)

今回「とっとりLIFE」に紹介されていたイラストレーター・似顔絵作家の宮本栄一さん、「ゴロ画伯の絵日記帳」で連載中の松村宏さん。ともに自然豊かなのんびりとした鳥取に住んでいるからこそ、その作品にキリッとした鋭い一面が出るのかなと思います。

(大阪府寝屋川市 小西 一雄)

(鳥取県鳥取市 中原 浩光)



## 鳥取県人会リレー紹介



「よう帰ってきんさった」といつも温かい言葉ともてなしで迎えてくれる故郷・鳥取県に感謝しています。会員の世代交代が進んでいますが、自分たちのルーツを大切にすることを育んでいきたいと思っています。

会長 本橋 幹久

### ▽ブラジル鳥取県人会概要

設立/1952年  
会員数/約300世帯(2016年9月現在)  
会費/100レアル(日本円で約3100円、2016年9月中旬現在)  
入会方法/事務局へ連絡

### ▽問

ブラジル鳥取県人会事務局  
Mail: [tottoribrasil@gmail.com](mailto:tottoribrasil@gmail.com)

## ルーツ忘れず交流続けて半世紀



記念式典で傘踊りを披露する会員たち

ブラジルのサンパウロ市を中心に、鳥取県出身の1世から、その縁者である4世までが集う県人会です。創立は1952年鳥取大火の際、故郷を助けたいと募金活動を始めたことが発端。60年以上を過ぎた今でも、鳥取県との縁を大切に紡いでいます。

主な活動は、踊りや語学などで鳥取の文化を伝承、普及することと、鳥取県との交流事業の実施です。伝統芸能の「鳥取しゃんしゃん傘踊り」はブラジルでも大人気。各地で行われるイベントに招待され、披露することもしばしば。このほか県人会では唯一「日本語教室」もあります。

また交流事業では、留学生や研修員等の派遣を50年以上継続しており、のべ200人以上が絆を深めています。なかでも「コーラス部」は、昨年11月に鳥取県を訪問。鳥取市のコーラスグループとコンサートを行い、歌を通じた交流を成功させました。

今後も鳥取県とブラジルの架け橋になるよう、活動を続けていきたいと思っています。



111号の感想から



● 112号プレゼント応募用クイズ ●

Q

古文書などを修復するために専用機を使って紙を補強する方法の名前は？4文字でご記入ください。

111号のクイズの答えは「板柘生」

「巻頭特集」の記事中に正解あり。

## 読者プレゼント

### ■ 応募方法

頁右上のクイズの答え、ご意見、ご感想とともに希望の商品名と記号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、下記までお送りください。ハガキまたはメールで受け付けています。なお、感想が次号に掲載される場合、住所、氏名が明記されることをご了承ください。

■ プレゼント応募にはクイズへの回答が必須です。本誌を読み、頁右上のクイズにお答えください。

### ■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220  
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)  
「とっとりNOW読者プレゼント」係  
mailaddress: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

A



【3名】

いなば鶴 純米酒 生酏 強力 (720ml)

県産酒米「強力」を使用し、生酏で丁寧に造った純米酒。濃醇ながら辛口で、肉や魚料理に合う。寒い季節にぴったりの燗がオススメ。

問 中川酒造株式会社

☎ 0857-24-9330

B



大山望セット (4種類)

【5名】

県産食材にこだわったチップスとカレーの詰め合わせ。チップスは大山産白ネギ入りと鳥取和牛入り、カレーは大山産ハーブチキン入りと鳥取和牛入り。

問 エムケイ開発株式会社

☎ 0859-62-7577 (大山望)

C



【1名】

カードケース (縦11.5cm×横6.5cm)

けやき 智頭杉と櫟を使用したカードケース。スライド式で、開閉もスムーズ。名刺ならば約20枚入る。使う度にツヤが出て、愛着がわく逸品だ。

問 ティンバル

WB http://timbar-japan.com

D



低グルテン米お試しセット 【3名】

「さとに米千両と甘酒」 (米2kg、甘酒300ml)

低グルテン米「春陽」と「LGCソフト」をブレンドし、五ツ星お米マイスターが味を調えた「米千両」と、「春陽」の米糀で造ったこだわりの甘酒。

問 株式会社さとに医食同源

☎ 0857-50-0613 (代表)

0857-50-0172 (ライスセンター)

E



【5名】

鳥取二十世紀梨ゼリー (1個300g)

二十世紀梨が丸ごと入ったゼリー。さわやかな甘さと、梨のシャキシャキした食感が特徴。平成28年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール優良賞受賞。

問 ありのみ倶楽部

☎ 0858-85-1531

F



【5名】

天然還元水 白山命水 (500ml×24本)

くらし 倉吉市内の井戸、地下242メートルから汲み上げた天然水。三朝温泉と同じ天然ラドンを含む。ミネラルバランスも良く、弱アルカリ性で飲みやすい。

問 株式会社白山命水

☎ 0858-28-1441

G



鹿肉の佃煮・しぐれセット 【5名】

(鹿肉の佃煮100g・しぐれ200g)

や 八頭郡内で捕獲したシカの肉を、ほぐして甘辛く煮た加工品。佃煮はご飯のお供に、しぐれ煮はバスタやチャーハンなどの料理にも使える。

問 フォレスト姫宮

☎ 0858-84-3838

H



2017年版鳥取県民手帳 【3名】

藍染工房「ちずぶるー」のカバー付、智頭急行恋山形駅にちなんだ「恋するピンク」、スタンダードタイプの梨グリーンのいずれかをプレゼント。

問 今井印刷株式会社

☎ 0859-28-5551

## Editor's note

□ ■ 編集後記 □

ザリガニ釣りや昆虫観察、野良猫や野良犬との会話。——とかく「動くもの」に釘付け。恐れを知らず、すぐ触わる。近所の土手や田んぼ、どぶ川、駐車場で。日が暮れるまで夢中になっていた子どもの頃。そんな私など足下にも及ばないどころか、断

然上回る`生き物大好き夫妻。に出会った。(28頁)。▼南部町のありとあらゆる動植物の研究・保護に日々邁進し、特に真希さんの豊かな好奇心と素早い行動力には、恐れ入る。慣れない土地をものともせず、生き物を見つけるセンサーを張り巡らせ、駆け巡る。捕獲して食べるものもあれば、保護対象のものは見守り、それを細やかにユニークに

記録したブログは大好評だ。([南部町のK原さん http://blog.zige.jp/morimaki-f-n/]) ▼翻って。私の好奇心は中途半端で、その道の職業へ就くには至らず。それでも生き物への興味は尽きない。だから、将来はせめて近所で評判の`ザリガニ釣りのばあば、と異名をとるくらい、名人級を目指そうかしら (苦笑) [Hi]

とっとり  
Now  
鳥取県総合情報誌 vol.112  
2016 Winter

企画・編集・発行 鳥取県広報連絡協議会  
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220 (鳥取県庁内)

制作 株式会社ジェイ・エス・エス  
〒680-1131 鳥取市馬場233-1 TEL.0857-37-4120

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

とっとりNOW

検索

http://www.kouhouren.jp/  
2016年12月1日発行 定価309円